



# 沼垂の町 小路めぐり

(新潟市中央区沼垂東・沼垂西界隈)

参考文獻  
[新潟歴史双書8 新潟の地名と歴史] (新潟市発行)  
[沼垂定住300年記念誌 めぐり] (沼垂定住300年祭実行委員会)  
[新潟市街角歴史案内] (新潟市)

※記載した内容は、歴史的には定説とすることが難しいものも含まれており、いろいろ説があるかとも思いますが、また、漏れ等もあるかと思いますが、みなさまがまちづくりを考える際に役立てていただければ幸いです。

小路散策の際には、近隣の方や通行する方のご迷惑にならないよう、節度ある行動をお願いいたします。

(見方・使い方)  
折りたんでページをめくると、裏も同じように真ん中で折り返し、たんでください。

- イラスト・写真・構成:野内隆裕
- デザイン・本文テキスト:上田浩子
- 協力:新潟市歴史博物館みなとびあ
- 製作協力:roji-ren niigata



2015年「沼垂の町・沼垂の町小路めぐり」が新潟市民文化遺産に認定されました。

企画制作 新潟市  
〒951-8501 新潟市中央区学校町通1番町602-1 TEL:025-228-1000  
※無断転載・複製を禁じます。  
2013.3初版、2021.3第6刷発行

## 沼垂町の変遷 ~移転してきた町

昔、信濃川と阿賀野川の河口は右図のようになっています。寛永8年(1631)の洪水で阿賀野川の信濃川への流入が始まり、河口は大きく変化します。王瀬(下図①、現在の山の下の地区の松島から上王瀬)にあった沼垂の町は新発田藩唯一の湊町でしたが、河口の変化によってまちが浸食されたり川底が浅くなったため、寛永年間から現在地に定住する貞享元年(1684)までの約50年の間に4度も移転を余儀なくされました。



沼垂移転の概略位置(『新潟市史』通史編1から作成) 数字は移転の順番とおよその位置

### 沼垂町の移転の変遷

- ①慶長の頃(1596~1615) 王瀬の地 蔵所 王瀬
- ②寛永17年(1640) 王瀬北の地 蔵所 蒲原
- ③承応3年(1654) 大島
- ④寛文5年(1665) 蒲原町上手 蔵所 馬越(沼垂小)/1683  
※当時の蒲原町は、現在の越の華酒造(中央区沼垂西)周辺と思われる

延宝8年(1680)、沼垂の町は王瀬へ移転しようとしたが、新潟町との湊訴訟に負け移転出来なくなりました(左図)。その後、沼垂の湊は新発田藩のものを扱う船以外の商船の出入りを禁じられ、湊町としての機能を制限されました。

⑤貞享元年(1684) 長嶺(現在地)へ移転

●蔵所 栗ノ木川からの舟運の便の良い町頭の高地にある  
●町制 石町、本町、古町、寺町のブロック  
●通り小路 石町通、本町通、古町通とそれに直交する小路  
●川 栗ノ木川(栗ノ木通・長嶺通)と御手洗瀬川・寺町堀(五間堀)が鏡ヶ池で交差  
●堤 はしげ船が蔵所と停泊船の間の堤を往復して荷の揚げ下ろしをした  
●湊 信濃川河口の停泊船に蔵所の荷が積み込まれ、運ばれた



貞享元年「沼垂町制図」(部分)

その後、沼垂町は明治22年(1889)に蒲原・長嶺・流作場と合併、大正3年(1914)には新潟市と合併し、現在に至っています。

河口付近の推定位置関係(点線は昭和43年)『新潟市史』通史編1所収図から作成、一部改変

河口の歴史がわかる地形だニャー。



Main map of Shioya town showing streets, landmarks, and a cat-themed trail. Includes various callouts like '古信濃川の流れありきの碑' and '流作場五差路'.



貞享3年の町  
貞享3年から文政7年までに出来た町  
文政7年以降に出来た町

Right side of the page featuring a cat illustration, the title '沼垂の町 小路めぐり', and descriptive text about the town's main streets and history.